

好奇心が出発点

空を飛ぶ鳥を見上げて
「なぜ鳥は空を飛べるのだろう？」
「自分も空を飛べないか？」と
考えた人がいる。

——そこから始まったあくなき探究が
できそうもないことを可能にした。

一本の針金を手にしてながめ
曲げたりのばしたりしているときに
ある日、ひらめいた人がいる。

——そこから広がったやわらかな発想が
いまのわたしたちの生活に生きている。

出発点は好奇心だった。
だれもがもつ「わくわく」する思い。
好奇心は
わたしたちの生活を豊かにする原動力。

考えよう くらぶよう しよう

鳥を見上げている人がいた



針金を見つめている人もいた



わたしの身近にある
「便利」なこと。
それらには
それぞれが生まれる
きっかけがある。

新しくものを求めるヒント



書きためたノートにヒントはあった

わが国で最初にノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹博士は、いつもまкруもとにノートをおき、ねている間でも思いついたときにすぐメモをとっていた。博士は子どものころ、物質は分子の単位より細かくできるかどうかに興味をもち、調べたりたずねたりしたという。小さいときの好奇心と書きためたノートが、分子よりも小さい単位の中間子の発見に結びついた。その発見がその後の科学の飛躍的な発展へとつながっていった。



湯川秀樹 (1907~1981)



不思議な物質の正体を知りたかった



マリー・キュリー (1867~1934)

マリー・キュリーは、ピッチブレンドというウランをふくんだ鉱物から強い放射線を出す物質に興味をいだいた。いったい、この物質はなんだろうと、夫とともにその鉱物を何トンもくだいてなべでにるという作業をくり返した。そして取り出された0.1グラムの物質はラジウムと名付けられる。ラジウムは当時、戦場で傷をおった兵士たちの治りょうに役立ち、いまでもがんの治りょうなどに使われている。



わたしたちにも、知りたいことや、工夫したいことがいっぱいある。生活の中で、思いついたことを、素通りしないで考えてみよう。あなたが何かを生み出すきっかけが、そこにある。

身近にある「便利」なことを調べよう

毎日のわたしたちの生活は、たいへん便利だ。その「便利」なことをあたりまえと思っているわたしたち。それがどのようにして生まれたか、学校での学習などを通していろいろなものの生い立ちを調べよう。

こんな「便利」なこと	どんなきっかけで生まれたのか?
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>

わたしの好奇心からきっと何かが生まれる

こんなことあったらいいな	その実現のためのアイデア
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>



さあ、求め続けよう



あなたの探究心で